

**経済同友会 2026年度（第2期）リベラルアーツ・プログラム  
（2026年度は“リーダーのための教養プログラム”に改称予定）  
開催要領**

2026年2月  
公益社団法人経済同友会

**1. 目的**

組織を牽引したり重大な決断を下したりする局面において、問題の本質を捉え、倫理的な規範を兼ね備えた判断軸を持つ経営トップ層候補および次期上級幹部候補を育成すること

**2. 修了目標（ディプロマポリシー）**

本プログラムでは、幅広いテーマについて専門家から学ぶことで物事を考える際の視野を拡大し、自身の判断軸を形成することを目指します。

修了にあたっては、以下の3つの資質や能力を総合的に養うことを重視します。

**① 幅広い教養**

様々なテーマから着想を得る、ビジネスの枠にとられない広い視野。

**② ①をもとに深く考えると同時に教養をビジネスに応用する力**

個々の事象を歴史的・社会的文脈の中で捉え、より深い理解で、本質的な問いを自ら設定する力。また、多様な分野から着想を得て、規範となる歴史観や倫理観などを磨き、絶対的な正解がない課題に対し解決策を見出す力。

**③ 人を惹きつける対話力**

自身の考えを的確な言葉で発信し、フォロワーを惹きつける力。

**3. 研修内容・方法（カリキュラムポリシー）**

本プログラムでは、経済同友会が培ってきた実践知と社会的ネットワークを基盤に、次世代を担うリーダーに求められる倫理的な規範を兼ね備えた判断軸の確立を目的として、質の高いインプットと各テーマを深く掘り下げるディスカッションによるアウトプットの機会を提供する。

**① 幅広いテーマを深く掘り下げるディスカッション**

各分野の専門家からのスピーチの後、それぞれのテーマにおいて6名程度でディスカッションを実施する。幅広いテーマを深く掘り下げ、複雑な議論を構造的に理解することで問題の本質を見出す力を養う。また、自身の考えを自身の言葉でアウトプットすることで、対話の中で相手を引き付けるセンスを磨く。

## テーマ

1. オリエンテーション
2. 資本主義・経済
3. 宗教・哲学・思想
4. 国家・政治・社会
5. 歴史・文明
6. 自然・科学
7. 人生・教育・芸術
8. 日本論

※第1回のオリエンテーション以外は順不同となります

### ② 経済同友会副代表幹事との意見交換

経済同友会の副代表幹事もディスカッションに加わり、トップ経営者によるリベラルアーツの実践知や考え方のフレーム枠を学ぶ。

### ③ 専門家による講義・課題図書

各分野の専門家によるスピーチと毎回の課題図書により、徹底的に考え抜くためのインプットおよび思考のアップデートを行う。

### ④ 体験型の会合

スピーチやディスカッションなどの座学のみならず、実際にリベラルアーツを体験するオフサイト会合を実施する。美術鑑賞や座禅体験などを経ることで、より一層の深い理解を促す。

## 4. メンバー募集（アドミッションポリシー）

### ① 参加資格

- ジュニア・リーダーシップ・プログラム修了相当のビジネススキルを習得された方で、今後、リーダーとして活躍するために多面的な視点と深く考える力を養い、自身の判断力や倫理観などに磨きをかけたい方
- プログラムの趣旨をご理解いただき、自ら積極的にご参加いただける方（1社1名）
- 原則として会合の8割以上のご出席をいただける方

### 歓迎要件

- 経済同友会会員所属企業の管理職（主に部長、本部長クラス）
- スタートアップ企業の役員、社員
- リーダーシップ・プログラムまたはジュニア・リーダーシップ・プログラム卒業生

## ② 定員

最大 30 名

## ③ 参加時に求められる姿勢

- 徹底的に考え抜いていただく

講師からのアウトプットや他の参加者との対話を通じて、リベラルアーツという絶対的な正解がない課題に対して、自身の考えを深め、ひいては軸の形成にお役立ていただきます。そのためにもインプットを受けるだけでなく、インプットから何を感じて自身はどのように考えるのか、常に思考の整理、アップデートを図っていただきたいと思います。

- 積極的に自身の考えをアウトプットいただく

今後、リーダーとして活躍していただくためには、自身の考えを的確な言葉で発信し、フォロワーを惹きつける力が必要です。そのためにも、他の参加者に対して、自身の考えを積極的にアウトプットしていただくべく、対話型のプログラムを目指します。

- プログラムを共につくり上げていただく

本プログラムでは、参加者からご意見やご希望を随時伺いながら、その目的を達成するために必要な最善の方法を、共に創り上げていっていただきたいと考えております。

## 5. 実施期間：2026年5月～2027年3月

- 第1回会合（予定）： 5月29日（金）17:00～21:00@丸の内近辺
- 通常会合： 6月～翌年3月にかけて、月1～2回程度のペースで  
原則 18:00～21:00 に開催  
会合日程は、決まり次第、先々までお知らせいたします。

※各会合の正式なご案内は、メンバー確定後に、ご本人様へお送りいたします。

※会合はリアルで開催し、リアルでのご出席を原則とさせていただきます。

## 6. 2025年度参加者の声

研修の受講、前後の読書を通じて、ものの見方、時代の捉え方、人同士の間にある何か、自分とは何か、組織や社会において何ができるのか、といったことについて、深く考える時間が増えました。自分の考え方やものの見方というものを捉えなおすことで、自分の弱さや人の痛みを知ることへの関心、さらには自分の人としての資質や姿勢を自問自答する時間になっています。

（46歳課長）

普段学ばない題材に触れることで自らの視野の広がりを感じた。日々の情報獲得の幅も広がった。(匿名希望)

普段なかなか触れる機会のない分野に接することで視野が広がるとともに、さまざまな業種の方々とのディスカッションを通じて、自分にはない視点や考え方を得ることができました。また、各専門分野の先生方から直接お話を伺える貴重な機会をいただき、多様な知見に触れることで新たな考え方を吸収できていると実感しています。(40歳部長)

講師の方々から毎回新しいテーマで新しい気付きを得られており、自分の知識・教養が如何に足りていないかを身にしみて感じている。最近思うのは、この研修はある意味で学び直しの良いタイミングであるなど。本来ならば学生時代に身に着けておくべきだったかもしれないが。こういう実のある学びを早くから理解しておくだけで、今後の人生感が変わってくると思う。(39歳室長)

## 7. プログラム実施の様子



以上

【参考】2025年度リベラルアーツ・プログラム（2026年度は”リーダーのための教養プログラム”に改称予定）開催一覧

（敬称略、役職は開催当時）

No.	テーマ	講演者	所属先・役職	タイトル	課題図書
1	オリエンテーション	吉田 幸司	クロス・フィロソフィーズ代表取締役社長	よく考えるとはどういうことか？	吉田幸司 『哲学シンキング』（マガジンハウス）
		堀内 勉	多摩大学理事	ビジネスパーソンに求められる教養とは？	堀内勉『読書大全 世界のビジネスリーダーが読んでいる経済・哲学・歴史・科学200冊』（日経BP）
2	資本主義・経済	丸山 俊一	NHKエンタープライズ エグゼクティブ・プロデューサー	ポスト産業資本主義の「外部」とは？～時代の物語としての経済学～	丸山俊一『これからの時代を生き抜くための資本主義入門』（辰巳出版）
3	歴史・文明	細谷 雄一	慶應義塾大学法学部 教授	近現代史を見直す	細谷雄一『歴史認識とは何か 一日露戦争からアジア太平洋戦争まで』（新潮選書）
4	宗教・哲学・思想	古田 徹也	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 准教授	哲学を学ぶ意義と意味——九鬼周造『「いき」の構造』を題材に	九鬼周造『「いき」の構造』（講談社学術文庫）
5	国家・政治・社会	鈴木 一人	東京大学公共政策大学院 教授／国際文化会館 地経学研究所長	経済のグローバル化と国民国家の軋轢が生む地経学	鈴木一人『地経学とは何か』（新潮選書）
6	人生・教育・芸術	星野 太	東京大学大学院総合文化研究科 准教授	言葉を失う——人生を「物語」から解放するために	港千尋『ヒルマ・アフ・クリント——色彩のスピリチュアリティ』（インスクリプト）
7	オフサイト会合 森美術館 / 懇談会	森 京子	森美術館 理事長	—	—
		片岡 真実	森美術館 館長	—	—
8	自然・科学	福岡 伸一	青山学院大学総合文化政策学部 教授	生命を捉えなおす～動的平衡の視点から～	福岡伸一 『生物と無生物のあいだ』（講談社）
9	オフサイト会合 坐禅 / 懇談会	平井 正修	全生庵 住職	—	—
10	日本論	高津 尚志	IMDアフィリエイト (前IMD北東アジア代表)	世界が感化される日本の方法 - 「きく+ほどく」を体感し、実践へ	高津尚志『世界の経営幹部はなぜ日本に感化されるのか』（日経BP）